

学校敷地内での倒木

「南根腐病」の診断

南根腐病にかかった樹木の外観は、生理障害などの症状と類似するため、地上部の観察だけでは診断できません。

南根腐病の診断には、地際部や根系に形成される特徴的な症状を観察することが要点となります。

- ①地際部に菌糸膜が形成されていないか。
(写真1-1～1-6)
- ②地際部の樹皮下に南根腐病特有の
"蜂の巣状"の組織が形成されていないか。
(写真2-1～2-3)
- ③子実体は形成されていないか。
(写真3-1、3-2)
- ④地際部を軽く掘り返し根茎に砂利を巻き
込んだような菌糸膜が形成されていないか。
(写真4-1)
- ⑤地際部に鋼棒を突き刺し貫入異常がないか。
- ⑥幹を押すと揺らぐことがないか。



写真1-1～1-6 菌糸膜の様子(---で囲われた部分)

通常、茶褐色から黒色の菌糸膜が地際部に観察されます。この菌糸膜は、場合によっては地上1～2mの高さにまで進展します。



写真2-1 写真2-2



写真2-3

写真2-1～2-3 蜂の巣状の様相を呈した腐朽材



写真3-1 写真3-2



写真3-3 写真3-4

写真3-1、3-2 シモノサルコシカケ子実体
(←の部分および---で囲われた部分)
培養菌叢(3-3)、鹿角(ろっかく)状菌糸(3-4)



写真3-5、3-6 南根腐病によって枯死した樹木



写真4-1 根茎に砂利を巻き込んだ菌糸膜(←の部分)

「南根腐病」の防除・対応

1. 感染木の伐倒

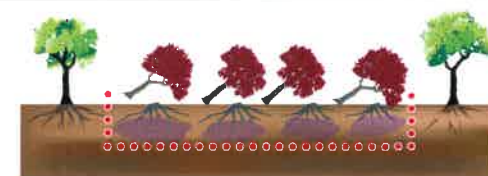
南根腐病は、特に地際付近を腐朽させるため、樹木自身の支える力が低下します。倒木の可能性が高くなるため伐倒が必要です。

2. 感染源の除去

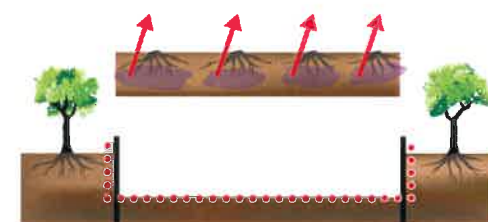
感染源の放置は、周囲の健全木へ感染を拡大する原因となります。感染した樹木を伐倒後、根を周りの土壌ごと掘り起こし、根の断片などを除去した後、土壌を埋め戻します(図1)。根を除去する際に健全区域と感染区域を隔てるトタン板などを設置してください。

3. 薬剤の使用について

南根腐病対策に適用可能な農薬は、いずれも「医薬用外劇物」に指定されています。薬剤による対策は、県主催の勉強会を受講し、安全管理および使用方法を十分理解した上で行ってください。また、個人宅での対策は造園業者や樹木医に依頼してください。



感染した樹木の伐倒



土壌の掘り起こし、根の断片などの除去
トタン板などの設置



土壌の埋め戻し

図1 感染源の除去

南根腐病

Q & A

Q. 南根腐病の治療は可能か？

A. 南根腐病の治療法は確立されていません。登録された農薬は、「定植ほ場の南根腐病の密度低減」を目的としていますので、植栽されている樹木の治療目的では使えません。

Q. 薬剤はマンゴーなどの果樹に使ってよいのか？

A. 南根腐病対策に適用可能な農薬はすべて「樹木類」を対象としており、「果樹類」に分類されるマンゴーの南根腐病には使用することができません。

Q. 感染木を取り除きチップにした、マルチング材として活用できるのか？

A. 南根腐病菌はチップ中で生き残ります。マルチング材を介して感染を人為的に拡大させることになるため、マルチング材としての利用は避けてください。